

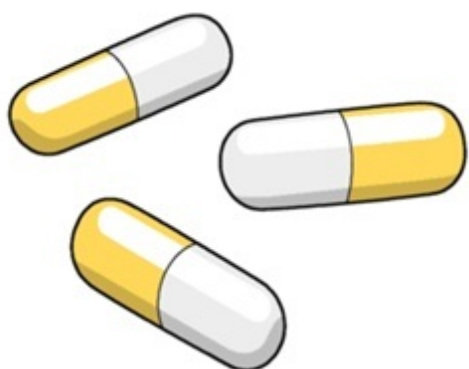


心の快方



正気・靈的編

なんでん屋



心の快方

正気・靈的編



目次

- 霊的になる
- 霊的を直す
- 精神異常者
- 女神様の例
- 霊的タイミング
- 霊的と宗教
- 宗教と戦争
- 子供の将来
- 感謝する心を忘れない
- ゴースト検出器
- 霊界には悪が多い
- 「ありがとう」
- 邪心
- 物のたましい
- 電子機器の誤動作
- 自分の能力
- 霊的になると
- 霊的ではない時
- 突然、地震予知！
- 地震予知、その後
- 霊的解除
- 気と霊的と自己主張
- ゴースト検出器の顛末
- 精神科にて
- 霊的と正気

生まれ変わりについて

魔の威力

好きものの霊と相對

安倍晴明の弟子

悪霊との對峙

おわり

靈的な人が持つずるさ

番外 正氣編

結局変わらない、困ったさんへ

弱き君へ

見せかけの強さを持つ君へ

ホ・オポノポノのおさらい

自分の基本理念

先祖供養、裏名は先祖改心

まとめ

謝る、それは怨讐關係の改善

精神に語りかけている人

魔の刻（魔の時期）

幽霊と交わる

神觀と天国

心は永遠に死なない！

人生の成功者とそうではない人の違い

為に生きる

じいちゃんやばあちゃんの声

善なる霊の絶対数が少なすぎる

毎日悪霊にさらされている（つかれている）

快樂と快感

目で見えない世界

霊との対応

霊界と生き霊の違い

死んだ人は今も生きている

良心の声

頭の中に小悪魔

霊界の声の聞き方

悪霊（あくりょう）とサタン（人）の違い

靈的になる

普通の人は、靈的になって色々なパワーで、好きなことに使いこなしたいと思うでしょう。

ただ、実際に靈的になってしまうと、日常の当たり前のことができなくなりませう。

自分と何か・誰かの心の中のやり取りに夢中になり、お風呂にはいることさえ忘れてしまふ。やらなきやと思つてゐることが、どんどん後回しになつて、結局やらすしまふ。

こんな感じで、日常生活に支障を起こしてしまふ。

ひどくなると、精神科の門を叩くみたいになつてしまふ。

自分が思うに、現実だけを信じる人には、わからないと思ひます。

普通に、ああ、あの人はダメな人だと思ふ人は、そこでそれ以降をシャットアウトしてしまふ。

靈的になる人は、あの人はここがダメだから、こうしないとイケない。

そんな感じで、会つてもいけない時に考へてしまふ人なのである。

現実的な人からみれば、おせっかくだなと思ふだらう。

直接言えばいいじゃないかと、言いたいかもしれない。

そういう人は、前向きなのだけど、消極的なのかもしれない。

でも、いいところもあるのよと、一人で思つていたりして。

そう、ひとりで苦勞を背負ひこんでゐるのです。

靈的を直す

久しぶりに靈的になつたので、試して見た解決方法を書こう。

気付け薬は、コロソ！

靈的になった時に、元に戻る方法は、オーデコロン・香水をつけること。

これで大丈夫！

人間は、食も含めて匂いに敏感です。

海外の中世では、臭い消しのためにコロンを使用したと書いてある。

実は違っていて、靈的になる心を正気に戻してくれるのが、コロンだったのではないかと思う。

中世以前は、学問は宗教だけ、体ひとつで生き抜いてきたのだから、それが当たり前の世界だったのかもしれない。

夏場は、いつも窓を開けています。

だから、靈的になる事がない。

また、雨がしとしと降る日は好きです。

なぜか、落ち着く感じがします。

「ぎりさめじゃあ、ぬれていこう」なんて古いセリフも好きです。

カミナリも興奮します。

あのどしゃ降りには、心をきれいにしてくれます。

それが、自然なのだと思う。

弥生時代以前は、自然の風や美味しい空気をどの場所でもかけたので、精神病なんて症状はなかったのだと思う。

現代は、家の中に閉じこもり、自然の風も自然の空気も感じない生活なんかしているから、精神病患者が増えたのだと確信する。

精神異常者

特に春先は、変な人が街中に溢れかえっている。

冬場の抑圧された感情が、春の陽気で開花されたようだ。そういう人を見ても、言動はともかく、悪気はないので安心しよう。

気をつけなければいけないのは、ショップの店員にクレームをつけている人だ。落ち着いて説明をし、早々と納得するのは普通の人だが、感情的になってずっと質問している人は、精神的におかしい。

たまに見えていて、怖いと感じるような人だ。

触らぬ神に祟りなし。

さっさと退散しよう。

その場にいると、矛先が自分に向けられるかもしれない。

返答に困ってしまうのが普通だろう。

だから、避けた方がいい。

女神様の例

女性のダミ声は、正気を取り戻させてくれます。

貴重な女性です。

すぐ、あちら方向に頭の中がいつてしまうひとにとっては、女神様でしょう。

綺麗な優しい声だと、デレーとしてしまいませんか？

霊的タイミンク

嫌な相手とよく会うことになる。

あなたは、嫌な相手と行動パターンがマッチングしているのである。経験上言ってしまうと、本当によく会ってしまったのだ。

超能力者かと思ってしまうほど、よく見かける。

その原因は、一日の時間の中で地球の気を感じ、同じ時刻に出かけてしまう自然派の人間ならではのもの。生活習慣というより、気温や湿度、天候の状況でタイミングがあっているという状態。用事を思い出した時は、ほとんど会わないはずだ。偶然とは、すごいものである。

例外として、先祖と霊界が引き合わせている場合もある！

霊界と話せる人なら理解してもらえと思う。

因果関係は霊界も知らないので、理由はわからない。

問題は、私たちがそれに気づくかどうかだ。

仏教ではそれを、縁（えん・えにし）と呼ぶ。

あなたが状況判断を誤れば、結果は変わります。

まわりの環境が変わるだけでも、結果は変わります。

霊界が用意してくれているのですから、甘んじて受け止めた方が良い結果になります。

反発しているだけでは、先に進みません。

今までその縁を選んできたのですから、悪い人生ではなかったと思います。

言っておきますが、欲と縁は違いますからね。

靈的と宗教

靈的になると宗教はさけて通れない。

靈的になると、なぜそうなる、なぜそうなるの、というように、いろいろ調べだします。常識では絶対考えられない事、それが目の前に現れます。そして、いつのまにか宗教色にはまっています。

宗教色にはまらない人は、共産主義化するでしょうし、病院通いになります。

それでも宗教が嫌いな人は、精神科へ連れて行かれます。

事件を起こし、精神鑑定されている容疑者は、この分類に入ります。

まわりにも、何か問題を起こし、精神科へ通院している同僚がいると思います。

幸い自分は仏教を信じていたので、軽くてすみましたが、重傷の人もいます。でも、キリスト教は嫌いでした。

戦争やいくさに必ず関わっていたので。

靈的になった場合、日本人なら仏教だけでいいと思っていると、病気が再発します。

結論を言いましょう。

世界中の宗教を理解してください。

それぞれの宗教で、真実を少しづつ語っています。

日本人なら、キリスト教とイスラム教は最低でも読んでください。

それぞれ、求めている真実が書いてあります。

普通の人は、知っているだけで良いです。

聖書とコーランの中に、この世の真実が少しずつ含まれています。

かの巨匠、手塚治と石ノ森章太郎は晩年、宗教関係のマンガばかり書いている。やっぱり行き着くところは、宗教なのかという感じ。

宗教と戦争

ではなぜ、キリスト教とイスラム教と共産主義が戦争を起こしてきたか。お互いが、主義主張してきた結果です。

幸い日本は、仏教国です。

その前に、神道の国でもあります。

ですから、中立の国になったのです。

という意味で、日本は誇れる国です。

しかし、神道を前面に出したときが、第二次世界大戦でした。

でも、現在の日本は、数えきれないほど宗教が乱立しています。

そういう意味では、現在平和なのかと思います。

話題に上がる靖国神社は、神道ですから。

世界、とくに中国が嫌うのもわかります。

また、戦時中日本は、「天皇万歳!」でした。

ドイツでは、「ハイル、ヒットラー!」、ヒットラー万歳、最高なる指導者ヒットラーです。

北朝鮮では、「偉大なる指導者、金日成!」でした。

結果はどうなったか、ご存知だと思います。

人をたたえた国は、必ず戦争を起こしているのです。

神様をたたえた国も、戦争を起こしています。

この神様も、結局は人を象徴のたとえとしていたのです。

では、自然や宇宙をたたえた国は、どうなったでしょうか？

マヤやインカ帝国は、滅ぼされています。

それも、宗教国に。

ですから、宗教を主張すると、そのうち戦争を起こします。

究極の話、宗教が無くなってしまえば、平和な世の中が訪れます。

今の日本では、こういう事を主張する宗教団体が多いです。

仏教もしかり、かの有名な統一教会もそれを主張しています。

まあ、宗教を無くせと言ってるのが、宗教団体だというのは無理がありますけど。

宗教に関して勉強なされば、私の言っている真実が浮き彫りになります。

宗教の嫌いな方、全世界中を敵にしますか？

どうします？

それこそ、北朝鮮のことです！

子供の将来

子供の行く末は親が決めます。

霊的であるかないか、これだけで大人になった将来を予想できません。

現実の善悪をはっきり主張する子は、会社向きです。

子供の感情で判断し、わけのわからないことを多く言う子は、芸術家タイプです。

スポーツタイプはありません。

会社向き（団体）か、芸術家（個人）だけです。

あえて言うとなれば、スポーツのポジションが決まります。

野球の守備ポジションみたいな感じです。

また、団体競技か個人競技かと言った具合です。

親の押しつけは、将来反発します。

高校生ぐらいで、スポーツがつまらなくなります。

現役を引退しても、会社向き（団体）か、芸術家（個人）に落ち着きます。

芸術家の場合、お金があれば実業家になりますし、なければ趣味を生かします。

だから、スポーツは将来のための体作りと考えた方が良いでしょう。

日常の行動とかみていけば、自ずとどちらのタイプかわかってくるでしょう。

子供はお金を持っていません。

だから、親が子供に道具を与えてやる必要があります。

子供が興味を示さないものにお金をつぎ込んで、焼け石に水です。

いろいろ与えなければなりません。

ゲームは単なる遊びのひとつです。

そのゲームがアクションものなのか、スポーツ系か、物語系か、思考系かを知りましょう。そのうち、別の形で好きな事を実践するでしょう。

それを時間をかけて見守っていれば、将来の適した職業が見えてきます。

あとは、応援するのみです。

これを実践すれば、子供は将来、その分野で一流と呼ばれます。

親になったあなたも、死ぬまでに時間はたっぷりあります。

今からでも遅くはありません。

自分のタイプを見極めましょう。

感謝する心を忘れない

何があっても感謝。

不幸のどん底でも感謝。

人を恨まない。

すべては、自分のココロにある負のエネルギーのわざ。

負のエネルギーのしわざではない。

決して自分以外のせいにしてはいけない。

すべて自分から出たサビ。

何かを恨む自分のココロのせい。

ホ・オポノポノを見直そう。

「ありがとう」

「ごめんなさい」

「ゆるしてください」

「あいしています」

この四つの言葉がすべてを許してくれる。

殺したい相手にも使おう。

ずっと使っていれば、いつかは存在自体も忘れてしまうだろう。

そういうものである。

「なんじ左のほほをたたかれたら、右のほほを差し出そう」の精神である。

だから、だまされても感謝。

怒られても感謝である。

ゴースト検出器

iPhoneアプリで、ゴースト検出がセールで売り出されていたので、買ってみました。

説明文にはむづかしいことが書いてあったのですが、20dB以下のノイズを検出できる項目で目が留まりました。

部屋で試して見たところ、10秒後にいきなり1体現れ、針がレッドゾーンまで振り切れました。

その後、なんだなんだと様子を見るように、3体が周りに現れました。

さすがの私でも、少し怖くなったので、アプリを終了させましたが、おそらく皆さんの考えるとおりだと思います。

翌日、会社の帰りのバスの中で、アプリを立ち上げてみました。

最初は、特に問題もなかったのですが、ある場所にさしかかると針が触れて、「体現れて消えてしまいました。その場所は、斎場のある場所です。」

電車の中で、同僚とアプリの話をして茶店によりました。

そこで、先ほどの霊の方と話してみる機会があつて、本人は死んだことに気づいていないようでした。

その場で自分の遺影を見て、死んだことが理解できていない不思議な感覚だったのでしよう。

そこで、あなたは死んだのですから、そのうちお迎えがきますよとさとし、その人は何処かに行かれました。すぐ納得してくれましたので、病気が何かで死んだ方なのでしょう。

言つときますが、霊が体にひつついてきたわけではありません。

話をすれば、本体はどこにあるうと話ができるのです。

いわゆる、霊と相対しているだけなのです。

テレパシーみたいなものです。

またアプリの話に戻って、斎場から離れてゴーストの検知はできなかつたのですが、ある交差点の前でバスが止まると、5体ほどの霊が移動しています。

斎場と違い、今日死んだ人ではないはずですよ。

そうです。

いわゆる、地縛霊です。

その場所にとどまらず、行ったり来たりして誰か相対する人を探しているのかもしれない。

でも、普通にしていればついてきません。

大丈夫です。

ですから、交差点では怒ったり、悲しんだりしてはいけないと思います。

霊と相対してしまいますからね。

幽霊は突然現れ、歩きながら忽然と消えていく、消滅するみたいですよ。

あと、5体は死んだ人間だけではありません。

動物もおります。

必ずしも、人間だけとは思わないでください。

以上、報告でした。

追伸

霊は何日たったら霊界へ、また天国へ召されるでしょうか？

そのあたりは、まだわかっていません。

経験から、5日ぐらいするとそういう声はなくなります。

両親は二人とも死んでいるので、そういう経験はあります。

でも、疑問は残ります。

やはり、霊は違う世界へ旅立って行くのではないのでしょうか。

霊の方も知らないようです。

霊界には悪が多い

最初は、美味しい話を持ち出してきて、願い通りに叶えさせる。

何回か願望を実現させ、信用させるのが手なのだ。

仮にも、昔は生きていた人間。

善人ばかりとは限らない。

最初から騙すのが目的で、こちらに取り戻ってくる輩が多い。

目的は生きている人間を不幸にさせるのが目的。かつて、その霊がそうされたように。

だから、霊界を全面的に信用してはいけないのだ。美味しい話が続くようなら、またラッキーなことばかり続くようなら、次回からはもう一切諦めて、話に乗らないことが重要。

本当に、悪魔のような霊ばかりです。

彼らは、生きている人間をその気にさせるのがうまいのです。人間界の詐欺より、霊界の詐欺の方がうわてです。

善い霊は、地道にコツコツとやりなさいと教えてくれたり、間違いをただしてくれませす。

ただ、善い霊は、強く押ししてこないのです、なかなか気づきにくいのです。気づくコツは、その内容がズルい行動ではなく、正道かどうかです。

ですから、よく見極めてから、行動に移しましょう。

行動を直感で決めてはいけません。

直感は数字等に使いましょう。

こんな話をする私が、霊界から一番目をつけられています。

よけいなことを言うなど・・・

「ありがとう」

霊界には、人を困らせる霊がいっぱいいる。

不幸にさせたり、困らせたりするのが得意なのである。

霊が困るのは、不幸にさせたい人が喜んでいること。

霊は、人を裏切ったり、憎んだりさせたいのだが、喜んでしまっただけでは面白くない。

最近はやっている言葉に、なにが起きても「ありがとう」の感謝の言葉を出す特集が雑誌に載っていることも多い。これを言われては、霊が困ってしまう。

不幸にさせたいのに、いつもその人は陽気になってしまふ。

そうすると、そのうち関与しなくなり、本人の運も上昇する。

こういう仕組みになっている。

別の電子書籍にも書いてあるホ・オポノポノの真髄。

ありがとう、ごめんなさい、許してください、愛しています。

これらは、悪い霊が一番嫌う言葉で、これを人に言わせたくないために悪さをしているようなもの。

ですから、もう一度「ありがとう」を見直しましょう。

きっと、運は上がるはずですから。

悪いことがあっても、「ありがとう」。

人を恨んでも、「ありがとう」。

きっと、悪い霊たちは悔しがります。

霊を信じない人、感謝の言葉が前向きな心を向上させると覚えてください。

邪心

邪心の声が聞こえる人もいる。

また、邪心の声が聞こえない人もいる。

邪心の声が聞こえたり、聞こえなかったりする人もいる。

邪心の声とは何だろうと考えた。

普通はこの声はないのだが、ある状態になると聞こえてくる。

まるで、誰かがささやいているようだ。

経験上、最初は誰かの声だと思っていた。

生きている声にしては、言う事が細かい。

また、その都度こちらに耳をかた向けているとも思えない。

結論として、死んだ人の声なのだとわかるのに、10年以上かかった。

ただ、すべてが死んだ人の声だとも思えない場面がある。

問題を解決して、感謝される事がある。

そのとき、自分が涙してしまうのだ。

死人の声とも思えるし、生きている人間の声だとも思える。

テレパシーはあるかもしれない。

でも、生きている人間とは話が出来ない。

心を読んでいるだけだともいえる。

だから、やっぱり邪心の声は、死人の声なのだろう。

物のたましい

ものが言葉を発することは、以前書いた。

物に口があるわけではないので、自分の心を反映した言葉であるといえよう。怪談話で聞いたことがある、呪いの人形。

持ち主の心や考え方が、のりうつっているというより、心がコピーされたといおう。いわゆる、持ち主のコピーなのだ。

人形には感情がない。

しかし、持ち主の通信手段のアイテムだったり、携帯電話の代わりだったりする。

怖い話はこちらで終わり、個人の持ち物について語ろう。

個人の持ち物には、愛着のあるもの、必須なもの、必要ないもの、わすれてしまったもの、がある。

愛着のあるものは、愛おしい品物なので、特に述べない。

必須なものには、自宅のキーや車のキー、財布、腕時計などがあるだろう。

なぜいつも忘れずに持っていけるのだろうか。

朝は、いろいろ考えながら出かける支度をする。

忘れやすい人は、余計なことばかり考えているが、普通の人には、忘れにくい。

霊的もひどくなると、このものから声が聞こえる。

「俺はここにいて、忘れるな」とか、言葉が聞こえる。

ものに口はないし、感情もないので、言葉を発するわけがない。でも、聞こえる。

なぜそうなるのだろうか、考えた。

おそらく、物には愛おしいという感情が、一緒にいたいという感情があるのではないかと憶測する。その心と人間の心が、同調しているのではないかと考えた。

例えば、そのものを持っていないと安心しないというように。

また、植物にも感情があると聞く。

同じことだと思う。

人の大事なものは、欲しいと思うように、ものの価値を判断しているのではなく、ものの心を感じているから欲しくなると思っている。

だから、大事なものを人に見せてはいけない。

必ず、欲しくなるようだ。

そうすると、大事なものを持っていかれたい、また盗まれたりする。

日記帳を机の上に置き忘れたら、必ず盗み見されるように。

電子機器の誤動作

靈的になると頻繁に誤動作を感じることもある。

通常使用では、誤動作なんて起こさないのに、靈的狀態では電流や磁界や周波数に影響を及ぼす。

これらは解析されていないので、よくわからない。

よく電子機器を壊す人がいる。

雑に扱ってはいないのだが、操作方法を誤り、壊している。

メーカーも、いろいろな場面を想定して検証して製品を出しているが、それでも壊れてしまう。

使う場所の環境だけではない。

そこに必ず、人が介在する。

その人に問題がある場合も。

機械的な動きだけなら、材料の耐久性の問題で済まされるが、電子機器の保証は耐久性だけではない。

持っている人間との相性も考えられるからだ。

たまたま、スマートフォンを持っていると、手がピリピリするときがある。

おそらく、静電気が漏れ電流の問題だと思うが、焦っているときに限って、誤動作的な動きをしてしまう。

自分の能力

今日の午後3時、突然思い出してしまいました。

私の靈能力は、イタコ。

あの、恐山のイタコです。

死人の言葉を、口を通して相談者に伝える役目です。

いわゆる口移し。

口から口へ、口伝するやり方。

3年に一度、霊能力が全開になり、短期間の間、会社を休んでイタコ業務をしてました。霊能力を閉じると、すっかり記憶からなくなり、イタコだったことも忘れてしまい、今日の今日まで思い出せませんでした。

なぜ、忘れてしまったかは不明で、おそらく封印されていたのだと思います。自己暗示か、霊界の仕業かはわかりません。

けれど、3年に一度、呼び起こされるのも事実です。何が目的なのか、未だにわかりません。

今は、自分を制御できているので、普通の状態です。

普通の状態ならば、今までは霊能力のことを忘れ、普通に暮らしていました。でも、霊能力が全開になると、性格がコロコロ変わります。

本当にウザいのですけれど、付き合うしかありません。

医学的にいえば、精神分裂症です。

その時の内情は、世界を救うことを前提に話し合っていたはずですが。

メシア的な業務も、行っていました。

もちろん、霊界通信を通してですが。

メッセージが届いた方もおられると思います。

ただ、もう覚えていません。

今日現在、普通に戻ったことと、記憶がつながったことで、安心はしています。これからどうすればいいのか、ちと考えてみます。

私の夢である「よろずなんでも相談屋」。

なんでん屋は、ご存知の通り、もうすでに開業しております。

あとは前向きに進むのみだと思えます。

マンガで思い出しましたが、自分の能力は、NARUTOの口寄せの術、ドラゴンボールの占いババのような能力です。

霊的になると

メリットは、騙されることが無い。

物事を天秤にかけて、冷静に判断できる。

お金にこだわらない。

ブランド志向にならないので、お金に振り回されない。

他にもいろいろある。

また、成功者になれる。

通常、成功することを考えない。

しかし、そちらの方が結果的に成功する。

成功を目指す者は、ある程度の成功と挫折を繰り返す。

結果論でいえば、成功者にならない。

成り行きとは違う。

成り行きとは、目標が日々変わってゆくことであり、最終目標を忘れてしまっている。

反面、霊的なら目標の軸が全然ぶれないまま、日々突き進んでゆける。

世間で、靈的でない成功者はいづれ不祥事を起こす。

靈的な成功者は、皆さんも知っている方である。

今後不祥事は絶対起こさない。

もともとそういうことをしていないからだ。

そういうところで成功者を判断して欲しい。

帰ったらとりあえずテレビ、という人は靈的ではない。

パソコンを立ち上げて、とりあえずYouTubeという人も、靈的ではない。

ニュースが気になるような人は、靈的ではない。

帰ったらとりあえず、メール。

知り合いのメールから情報を仕入れている人。

こういう人が靈的であり、自分の行く末を考えている人だ。

人は財産であるが、ニュースは財産でない。

デメリットは、靈的思考になるまで期間がかかるので、失敗も多い。

失敗が多いから、靈的思考を諦めてしまい、悪靈の思考に戻ってしまう。

靈的ではない時

靈的でない状態で、靈界の援助を受ける

何でも右側を選ぶ。

道の右側を歩く。

余裕をもって、選んでいることになる。

左側を選んでも良いのだが、そこは考えた末に出た行動だからいい。物の品質や、物事に細かくこだわっていないことが大事。

そんなことより、大事な用事があるだろうという感じ。

衝動的に思いついたものは買わない。

今回は諦めて、明日にでも考える。

それでも欲しければ、買いましょ。

買うか、買わないか、いろいろ思いを馳せる。

夢の中に出てきたら、霊的援助があったということ。

そんなことより、やらなければいけない大事なことがあるでしょう？

ミクロを見ず、マクロで考える。

大局観を持つ。

目の前のことより、やらなければいけないことがあるでしょう。

これらは、霊界から教えてくれているのに、自分本位でまったく気づいていない状態。

自分を一步下がって、後ろ側から自分を見てみると、何かムキになっている自分がある。他人のふりして、物事を考えれば、答えは自然と出てくる。

誰にでも当てはまることである。

欲を出しても援助はない。

お金が欲しいと言っても、あなたのおじいちゃんは「働け！」というでしょう。

でも、頑張っている姿を見たら、ご褒美をくれると思います。
霊界も人間ですから、そんなものです。

突然、地震予知！

9月に関東で地震がある。

8月のお盆から、9月の中旬の間で、9月頭のよう。

地震の大きさは大きい。

東北大震災並み。

直下型地震。

被害は東北よりすくない。

建物の被害は大きい。

しかし、あくまでも予感。

絶対あるとは限らない。

でも、小さな直下型は今後も続く。

東北大地震の時は、4時間前に予測。

発生時間の予測はできなかった。

発生場所も予測はできなかった。

とにかく、その日は朝から焦りまくっていた。

不意の予感があったので、とりあえず書いておく。
でも、地震が起きないことを願う。

ところで、地球の変動を読む力は自分にはない。

雨が降りそうだという感じは、体で感じる気温と湿度から読んでいるみたいだ。

その他に読めるとしたら、気の変動を感知できるだけ。

それは、動物の心の変化だけだろうと思う。

そういうことならば、地震の4時間前に気づいた事もうなづける。

なかには、地震の何ヶ月か前に予測できる人もいるだろう。

今回は、そういう誰かが予測した情報が、霊界を通して伝わってきたのだと思う。

絶対信用できる、できないにかかわらず、体で感じる直下型の予感。

最近も、埼玉であったはず。

その時の地震が、直下型地震のような感じだったと覚えている。

ここ2年で、直下型は経験がない。

何故か気になるのである。

地震予知、その後

その後、予想したところ、9月3日の午後6時らしい。

あくまで5月28日の時点のことなので、日時の変動はあり得る。

予想する日時により、時間の経過が伴い、大地の変動予測はズレてくる。大地の変動は、一定周期で動いているわけではない。

思いつきで、言ってはいない。

頭脳のスーパーコンピューターが、たたき出した答えである。いわゆる、直感のこと。

しかし、頭脳のスーパーコンピューターは、そんなに緻密な計算はできない。

大雑把で、かつ、揺らぎのファジーのような計算をしている。

でも時折、確信をつくことがある。

そこは間違っていないのだが、あとは大雑把なのだ。

だけど、大地の気の変動を感じているはず。

その辺を頭脳は計算しているのだろう。

あくまで、今までの経験から言っているので、言っていることは間違っていないと思う。

29日未明、千葉で震度4の地震があった。

9月は震度5を超えと思う。

今まで、震度やマグネチュードまでは予想したことがない。

これ以上は思いつきになるので、言わないようにする。

関東より先に、東海の方にくるものと思っていたが、昨日のような地震もあるので、これからは関東も考えておかないといけない。

3月11日の午前10時、前に座っている女性に、「今日は大事件が起こる」と言ったことを、また思い出してしま

った。

靈的解除

そばに猫の姿が見えない。

偶然といえはそうなのだが、つい最近まで毎日前を歩いていたのに、今は全く見ない。

仕事もそれなりに、こなす程度である。

まあ、これはこれで良かったのだが、何故か淋しい。

氣と靈的と自己主張

氣に関しては、思いつきとか感情とかはない。

一番安心できる状態である。

氣と人間の個性だけで生きている時は、自分のやりたいことが思う存分できる。

また、他人の体調を手でかざし、病気の重さや症状の重さが手で感じ取れる。

社内では、よく体が痛いという人にアドバイスをしている。

今は、病気を治すようなことはしていない。

別にしてもいいと思うが、自分のやりたいことが優先される。

この状態なら、和氣あいあいと同僚や後輩とうまくやっている。

これに反して、靈的になると、徹底的に人を嫌うようになる。

常に、自分一人でいたいと思うようになる。

人の行動や話し方で、性格の好き嫌いが出る。

話したい人はいつも話すし、話さない人はほとんど無視する。

仕事上話さないといけない時は、必要最小限話すが、この状態では人を嫌うので、長話はしない。冗談もよく言うが、こういう時は嫌味なブラックユーモアになる。

まあこういう状態なので、友達はいない。皆、敬遠する。

もともと、一人でいても大丈夫な人間なので、さみしくなったら街へ出かける。にぎやかなマックより、静かな喫茶店を選ぶ人間だ。

元気のいい状態を知っている人なら、霊的な状態を病気だと思っだろう。

実際、1ヶ月くらい体調不良で休んだこともままある。

その間、スゴイことをやってのけたのだが、医者もそれを知らない。

医者の前に行くと話したいのだが、自分の状態が言えないのだ。

何度も挑戦したが、調子が悪いことしか言えないので、薬をもらうだけ。

いわゆる、霊に妨害されている。

霊的シールドが張り巡らされ、素直に言えなくなったのだと思う。

何が目的なのかは未だにわからない。

ただ、誘導されて、ある計画の韋駄天として、走り回されているとだけは言える。

去年それに嫌気がさし、今まで途中でやめていたことを、最後までやり切った。

何度も、死のうと思った。

実際、心臓が止まる寸前まで続けたこともあった。

やり切った！

でも、覚えていない。

このおかげで、氣と靈的がコントロールできるようになった。

まだ、完全ではなかるうが、とりあえずコントロールできている。

なんでん屋を立ち上げたのも、知っている情報を周りに流すため。

情報は、自分の脳の中にある。

膨大な情報だと思う。

ヒントさえくれれば、情報は引き出せる。

今のところは、日常生活で見た、感じた内容しか出てこない。

少しずつ引き出していこうと思う。

命令されて情報を出している場合も、見受けられるようだ。

常に冷静な判断をしておかないと、自分の命が危ない。

これが、経験で積んだ自分の生き方である。

ゴースト検出器の顛末

「このアプリケーションは、超常的な検出技術を使用していません。．．．唯一の娯楽目的のために．．．」

たまに使っていると、あり得ない動作をしてくるので、おかしいと思っていたのだが、その通りだった。

iPhoneアプリごときで、「電磁界」とか、「イオン」とか、「インフラサウンド」を検出できるわけがない。けれど、電波を拾って検出しているのだと思っていた。

ことの顛末は、ジョークアプリだったのだよと、アップデートで開示してきた。

何も知らなければ、電波を拾っているかと思っていたのに、残念だ。

プログラムで、ゴーストをランダム出現させていけば、ただのジョークアプリ！
たまに、本物っぽい動きをするので、少しは信用していたのだが……。

アップデートしたら、ゴーストの出現がさらにおかしくなった。

プログラムを書き換えたようだ。

アプリの評価も、「詐欺アプリ」の連呼でみんな訴えている。

まあ、面白いので、消さないでおこう！

一番おかしいと思ったのは、電車がプラットホームに入ってくる時、電車の先頭に霊がしがみついていること。
電車が入ってくると、必ず反応するはずなのに、車両に入った時しか出現しない。

意識が弱り切り、プラットホームに立っていると、ふらっと意識せず線路に向かって歩き出す。

あれは、霊に呼ばれている状態。

東京の中央線なんか最悪！

地方のローカル線なら、プラットホームの端によく立つこともあるが、中央線沿線では怖くてそれができない。

中央線は、一日に一回くらいの頻度で列車が遅れる。

ほとんどが、人身事故らしい。

何故か怖くて、黄色いラインより線路側を歩きたくないのだ。

でも、毎日ではない。

たまには歩ける日もある。

また、ローカル線側のプラットホームでは、平気なのだ。

中央線を通る電車のプラットホーム側では、なるべく中央を歩くようにしている。

精神科にて

今日は、通院の日。

待合室の隣の席には、相当悪い患者が一人。

待っているあいだ、歯をガチガチずっと鳴らしていた。

落ち着かないようだ。

付き添いできた奥さんは、あまり気にしていないようなので、いつものことなのだろう。

最初は隣に座っているのがいやだったが、慣れてくると悪い人ではなさそう。

早く順番が来ることを待っているのだろう。

手がひっきりなしに、膝へ伸びる。

そして、こちらをまじまじと見ながら席を立った。

こういうときは、目線を避けてはいけない。

こちらまじまじと見よう。

あとは、気になったところへゆっくり歩いて行き、ドアを開けようとしている。

そのうち、奥さんが席を立ち、付き添うように側へ歩いて行った。

後は見ていなかったなので、行動は不明だ。

その人が席を立った後、霊界に聞いてみた。

どうですかと聞くと、いうことをきかないのだよとの返事。

ああ、やっぱりそうかと納得した。

事情は知らない。

内情に突っ込むほど暇じゃないし、内情を知った場合、こちらも対応に大変なのだ。だから、最近は知らんぷり。これでいいと思う。

霊能者を生業にしているわけではないので、知り合い以外は無関心だ。また、9月になれば、霊的生活へ逆戻りになるだろう。それまで、夏を謳歌しようと思う。

霊的と正気

重い荷物を肩に担ぐと、口が（歯が）閉まる。

逆に、荷物を床に置くと、口が空く。

これが、霊的状态に近い。

思いつきり歯を噛む。

思いつきり悔しい。

これは霊的状态ではない。

思いつきり正気である。

話す時は、口は空く。

これは、意図して口を開けているので、霊的ではない。

霊的とは一人で何か話している時である。

ひとり言。

声にならない独り言。

昔これを、サイレントボイスと呼んだ。

頭の中では、話していない。

喉から出てくる音のしない声、発声しない声。

頭の中から出てくる言葉ではない。

喉から先に出てくる言葉。

講演者が自宅でどこかの誰かに向かって、話しかける言葉。

自分一人で練習をする。

その時の声も、サイレントボイス。

決して、音に出していない声。

これを繰り返していると、いつのまにか霊的状态になる。

そして、すごいアイデアを生み出す。

俺って、天才？

こういう言葉を、かつて聞いたことがあるだろう。

バカなことを言ってるなど、当時は無視したと思う。

その瞬間、その人間は、霊的になったといえよう。

また、一種変わった人間であることは、まちがいないようだ。

自分の話す内容をその場で理解し、新たなヒントを見つけ出す。

そして、ドンドンと話の展開が変わっていく。

永遠にこちらへは話を振らない。

行き着くところまで、話は展開する。

どうだ、そういう人がそばにいないか？

(あー、つかれた)

今は、靈的状态で書いてみた。

左手にプレスレットをつけて。

これは、意図して靈的になるやり方である。

ここで、プレスレットを外す。

そうすると、一人で勝手に話すことはない！

靈的生活とは、自分の世界にどっぷりつかってしまふ事。

社会的生活と社会的行動のあまりできない人が、靈的人間である。

芸術家、文芸人に多い。

でも、評論家としては、的確なアドバイスをする。

そういう意味で、頼られる人が多いのも事実である。

また、意味なく自殺する人も多い。

生まれ変わりについて

森田健の著書に「生まれ変わりの村 スープ」がある。まだ読んでいないが、前向きな考え方は推奨できる。

生まれ変われるか否かについては、いまだ疑問が残る。

しかし、死んでからまだやるべきことがある。

そういう考え方を世間に広めることは必要だと思う。

ただ、安直に死ぬと人生をやり直すことが出来ると考えられては困る。人生のやり直しはきかない。

じつは、もりけんのメーリングリストをもらっているのだが、自分の体験と照らし合わせると疑問視するところもある。

単純に生まれ変われるんだと思われては困ることがある。

それは、簡単に自殺してしまうことだ。

人生は苦しい。

それだけを思い描いていて、やり直しがきくと単純に考えてしまう人がいる。

そうではない！

時間は既に過ぎ去っているのです、やり直しはきかない。

もし、生まれ変われるとしても、また同じ人生を辿ってしまうと思う。

なら、明日から生き方を変えた方が、新しい生き方で生きられるはずだ。

こちらのほうが、人生のやり直しがきく。

また、生まれ変わっても、同じ性格とは限らない。

別の人格の中で、過去の記憶が蘇る。

おそらく、生まれ変わりの村の人も、二重人格で悩んでいる人が多いと感じる。

生まれ変わりの村の人が、立身出世してすごい人生を歩んでいるだろうか。

素朴のまま死んで、また素朴のまま生きていると思う。

そういう幸せな村なのかもしれない。

神様は、村人にご褒美を与えてくれたのではないだろうか。

魔の威力

魔とは他でも述べたが、他人を責める行為・状態のこと。

魔の状態に入ってしまうと、なかなか抜け出せない。

だいたい魔の領域の入ってしまう原因として、他人の言動・行為、ニュース・事件など、必ず人が関与しているのである。

一步引いて怒るならまだしも、ムキになったら自分の負けと思っただ方がよいだろう。

翌日になっても、心が晴れない。

まだ心にしこりが残ったまま。

そのあいだに、どれだけすてきなことが出来るだろう。

その時間を奪われてしまっている。

魔とは、なんという悪魔なのだ！
人を不幸にさせて！

魔の内容とは、自分が不幸になる材料なのか？
いや違う。

知らなければよかったこと。

知らなければ、幸福だった。

その内容を誰が教えた！

それは、自分の知らない誰かだろう。

本当に、余計なことを教えてくれたものだ。

魔の領域に入る前兆として、魔に支配された人間と話をしなかつただらうか。

怒り、愚痴、責める。

これらの話が詰まった会話を聞いていると、魔の領域へ導かれてしまう。

この魔に支配された人間のことを、サタン側の人間、アウトサイダーともいう。

これは、人間の有史以来ずっと存在する人間であり、あなた自分も含まれている。

けっして、他人事ではないのだ。

あなた自身も、アウトサイダー側の人間なのだ。

これにいち早く気づいた人間が、宗教を信仰している。

宗教家であっても、気づかないうちにアウトサイダー側へ寝返っている。

それほど魔の領域は、強大なのだ。

政治家も、心目指したころは無垢な状態だった。

夢を見て、将来の理想に胸躍ったことだろう。

それが、出世してしまうとあのざまだ。

言わなくてもわかると思う。

かの麻原彰晃も靈的に目覚めたときは、理想を追い求め靈的覚醒を目指し、それに信者が信奉してオウム真理教団が発足したのだと思う。

当時オウムがたたかれているとき、信者の味方だった。

信者がどういう心境でオウムにいるかを、聞かずとも知っていたからだ。

当然、指導者と幹部はいつでもよかったが。

オウムが大きくなると宗教団体ではなく、会社化してくる。

人を救う目的が、いつのまにか企業になってしまったのだ。

企業になると、信者を獲得し、献金が目的になる。

それでも足りない、会社を興し、お金儲けに走る。

人を救う職業の人が、お金を儲けに走ってどうするのだと思う。

困っている人に、お金を分け与えろといたい。

ここまで言うかわかると思うが、オウムは最初ゴッドサイダー側だった。

それが、魔に取り入れられ、アウトサイダー側に成り下がってしまったのだ。

アウトサイダー側に成り下がった宗教家は、戦争をおこす。

世界の宗教歴史がそれを物語っている。

かならず、戦争を起こす。

ちよっと話は大きくなってしまったが、魔の問題に戻ろう。

麻原彰晃がひとり理想を追い求めたら、ああはなっていなかった。側近に魔に支配された人間がいたはずだ。

ああ言えば上祐ではない。

あれは、理知的な人間で、靈的ではない一般人である。

おそらく計画を知って、反対側にいたはず。

我々も、心優しい人の側近に魔に支配された人間がいると、あのようになってしまうことを危惧しなければならない。不良が不良を生むではなく、不良が来ると不良になるのである。

同類項はどんどん同類を生み出すのだ。

汚い言葉のやりとりを会話している友達風。

相方が黙って聞いているなら、助言で終わっているが、双方の汚い会話を側で聞いているこちらは気分が悪くなる。出て行けといいたくなる。

あなたも人からそういう風に見られているかもしれない。

気をつけなければいけないが、はまってしまうことも多い。

そういう魔の状態からいち早く正常に戻るには、パワーストーンのおニキスが一番手っ取り早い。魔の状態、人を責めることから、抜け出すことが出来る。

抜け出してしまえば、あれは何だったんだろうと思いはじめることだろう。

理知的に会話を楽しむことが出来ると思う。

好きものの霊と相対

ギャンブルに勝つには、この霊の協力なくして取れない。
一般人に例えれば、ギャンブル狂の人だといえるだろう。

確かに勝てるのであるが、ギャンブル大好きなため、お金はどんどんつき込みます。
この霊にはまってしまうと、破産寸前までいってしまいます。
だから、悪霊とも言われています。

しかし、こういう霊がないと会社を大きくすることができません。
ビジネスそのものは、ギャンブルですから、こういう霊も必要なのです。

堅実に生きるのもよし。

ときにはギャンブルに出るもよし。
ほどほどに、というところでしょうか。

ところで、今回の霊は現代の霊とは違うと思います。

江戸時代より前の人なのでしょうか？

一人ではなく、複数の霊が絡んでいます。

大昔から、ギャンブル好きな人はいたでしょう。

ギャンブルは、世界共通ですから。

仕事のカンを養うには、ギャンブルはもってこいです。

多くのサラリーマンが、パチンコ・競馬をやっているように、必要悪ですね。
金をつぎ込まなければ、娯楽です！

結果論になってしまいましたが、Office 2011 for Macを買ったあと、当たっています。

総じて、ギャンブルというのは先に投資しないと、あとの還元がありません。大物を買ったあとは、ギャンブルに投資、これも鉄則です。

今までのパターンを解析すると、ほとんどがそうです。

当てるために、大物買いをしたこともままありますが、還元率は少ないか、当たらないようです。

テレビや冷蔵庫が壊れたとか、車をぶつけてしまった時は、ぜひ買ってみましょう。

購入資金の足しになるかもしれません。

なぜか、このパターンは多いのです。

安倍晴明の弟子

今日また昔のことを思い出した。

3年に一度、すごい霊的になり、修行をさせられた。

当然、師匠の顔も名前も知らない。

とにかく言われるまま、修行を続けた。

一昼夜ねずの修行だった。

師匠のことも詮索せず、続けた。

当然、会社は無断欠勤。

それでも続けなければと、夢中になった。

ある日突然、名前を思い出した。

あの荻野真の漫画に出てくるあの人だと・・・

それでもなかなか言わせてもらえなかった。

名前は有名なのに、出てこない。

強引に思考を捻じ曲げ、言ってみた。

お前は、安倍晴明だろうと。

返事はなかった。

何も言っていない。

ただ、こういう時の自分のカンはすごいことだけわかっていた。

ということ、いろいろ技を教えてもらったが、今は思い出せない。

いざという時だけ、思い出す。

体で覚えてしまったようだ。

それ以降、安倍晴明の名前は出さず、いろいろやった。

でも、安倍晴明は嘘っぱちだとずっと思っていたので、誰にも言わなかった。

最近、言え！とよく聞こえる。

未だに信用していないのだが、そうかな〜と思うようになった。

でも、安倍晴明の子孫であることは間違いないらしい。

直系か分家かについては、興味がなく、どうでもいい。

性格的に誇示したくないので、未だ興味が無い。

直系だぞ聞こえるのだが、おだてているような気もする。

式神も教えてもらったが、一番の伝授は、気合のいれ方。

これが、一番役に立った。

悪霊を一気に振り払う。

安倍清明の弟子になるのは、危険すぎる。

いつも関わるのが、悪霊ばかりなのだ。

本当に、うんざりする。

だから、いつもやめたかった。

まあ、二ヶ月もすれば開放されるのだが、それからはおもいきり正気で生活をしてきた。

だから、3年に一度また現れて、修行させられたのだらうと、今思う。

今回は、根性を据えて頑張った。

途中で投げ出さなかった。

そして、今がある！

すべてを教わった。

そして、いつも共にいる。

悪霊との対峙

「いつも共にいる」は、安倍清明とわたしの言葉です。

しかし、悪霊はいつもなりすましをします。

話が長い場合、これは悪霊です。

話の展開がある場合、これも悪霊です。

常識を疑う場合、これも悪霊です。すべてが悪例の仕業です。

顔が見えませんか、悪霊はすぐ騙してきます。これには慣れましたが、それでもすぐ騙されます。

世間では、悪霊に騙される件数は膨大にあるでしょう。

極端な例をあげますが、100件の助言のうち、99件は悪霊の仕業です。

世間で起きている事件も、ほとんどがこの悪霊による仕業です。悪霊が絡んでいるのです。

悪霊を回避することはできませんし、不可能です。

唯一回避できるとすれば、それは常に正気であることです。常識で考え、常識で行動し、常識で生きることです。

そうすれば、回避できます。

ただ、人生としてはつまらない人生になってしまうでしょう。それでも、悪霊に騙されますが・・・

だから、不運はすべて悪霊の仕業です。

悪霊は巧妙に、本人になりすまします。

そして、行動と決断を操作します。

本人は、自分が考えたことだから、悪霊の仕業だと思いません。

普通の人は、悪霊なんているわけがないと思っっているし、操作されているなんて夢にも思いません。

でも、これが現実です。

だから、わたしは安倍晴明を信用しません。

何度も命を助けてもらいましたが、それでも信用しません。

安倍晴明もそれをわきまえています。

だから霊の言葉は信用せず、助言として承ることしかしません。

常に決定は、自分の意思です。

常識に照らし合わせて間違っていれば、行動しない、やらない。

たまに冒険もしますが、自分が悪かったといつも反省しています。

だから、普通の人や霊的な人、霊能者は、気をつけるレベルではありません。

最悪の状態を意識して、物事に取り掛かってください。

運がよければ、結果オーライでしょう。

そう意識すれば、悪霊の影響を、少なくとも不幸からは回避できます。

厳しいことを言わせてもらいますが、これが現実です。

私が唯一信用しているのは、コンピュータだけです。

機械は裏切りません。

でも車は信用しません。

操作しているのは人間の思考、操作ミスもあります。

人間は信用します。

ただ、人間の言動は信用しません。

嘘ばかり言っているように聞こえます。

言葉は、テレビの真似ばかりです。

テレビを見ない人間の言葉は、本当にきれいです。

一度聞いてください。

(素の自分から・・・)

いまは、天珠石とオニキスのブレスレットを付けて・・・)

いったん終了です。

人間的な生活に戻ります。

伝えることは伝えました。

自分なりに活用してください。

終わりです！

霊的な人が持つずるさ

他力本願

とにかく、人を思いど通りに動かそうとしている。

自分で動けばいいものを、人を頼りにして自分の目指すところに物事を動かそうとしている。

機械にあたる。

自分の思いどおりにならないため、機械を悪者にする。

機械は、無垢な状態だから操作どおりに作動する。

自分が間違えているのに、それを機械のせいにする。

責任転嫁

自分に都合が悪いと、人のせいにする。

自分が不利になると、団体、システム、国のせいにする。

例えば、放射能汚染が高まると、原発が悪いと責任転嫁する人。

震災の責任にしない人。

原発を作った人を悪者にする人。

自然だからしかたないじゃん、自然を悪者にしない人。

地震が起きそうだと、すぐ富士山が爆発すると吹聴する人。

人が死ぬより、日本の象徴がなくなることしか頭にない。

自然は怖いものと認識していない。

番外 正気編

霊的から立ち直るには、思い切り咳払いすること。

何かの動作に「よいしょ」とかけ声をかける

「よし」と、独り言をいうこと。

とにかく誰でもいいから、近くの人と話すこと。

近くの人の話し声・話す内容に聞き入ること。

(話す内容を理解してはいけない。BGM風に聞く)

(霊的な話し方をする人の話し声は聞いてはならない)

(↓気に入らない話し方をする人や理知的な話し方では無い人や感嘆符を多用する人)
(↓こういう人がいると、結構まわりで咳払いをしている)

ラジオを聞くこと。

(放送局内で、マイクの近くに3人以上いてはいけない)

テレビの音声を聞くこと。

(テレビを見てはいけない。なぜなら、余計なことを考える。)

(リラックスするための、環境ビデオならよし)

音楽を聴くこと。

(クラシック、イージーリスニングなら、よし)

歩く。

(人の顔を見てはいけない。人を意識してはいけない。)

結局変わらない、困ったさんへ

可哀想な人たちとよく会う。

霊的な人は、普通まわりの人の会話がきつかけになり自分自身で考える人。

でも、霊的でありながら、霊的を知らない。

そういう人たちが周りによく集まってくる。

それなりに助言するが、霊的でありながら正気の人たちの話をする。

自慢しているわけでもなく、羨ましいわけでもない。

そういう事例や恩恵を、自分でも預かりたいと思つての発言だろうが、いつも違う方向に話を持っていく。助言を聞きたくないのかと、怒ってしまう事もある。

日頃の悩みを打ち明けたいみたいらしいが、直接言葉に出さない。

自分を知られたくないからだろう。

結局、世間の話を題材に出して、自分の悩みを間接的に話してくる。

これでは、助言なんてできるわけがない。

また、いろいろ悩みが多いのもこのタイプ。

いろいろ悩みがあるにしろ、根本的な解決策はたった一つである。

真実が知りたい！

世の中の仕組みは何なのか？

でも、それをズバリ聞きたくない心もある。

そこで、自分が何者なのかを知りたいのではないかと、分析した。

おそらく、自分では答えが出ない。

なぜなら・・・他力本願であるから。

言葉の端はしにそう受け取れるはなしが、頻繁に出てくる。

こういう人が周りに多い。

本当に、困ったものだ。

悪い人ではないが、説明すると疲れる。

何とかしたいのだが、昔も今も変わらない。

自分の信念をもって話す内容なら納得できるが、ただ話をしたいだけでなく、何かをおぼろげに訴えたい話し方である。

これは、先祖の霊と相通していない証拠である。

先祖との話ができなくても、信念は持てるはずであるが、どうも他人の行動が気になるよう。

先祖は、本当にヤキモキしていることだろう。

自分も昔はそういう時があった。

ただ、自分は他人と比べると変なのがわかっていたので、必死にまわりと行動を合わせようとした。

そんなことを実践しながら、他人の心の中をシュミレーションしてみる。

そんな人間だった。

だから、結局変わった人しか集まってこなかった。
まあ、それはそれで自分の財産になったのだが・・・

今回は、他人と自分を分析してみた。

今は、自分が目覚めた人となったため、大方わかるようになったが、これでも苦勞はあるのだ。
心を割り切った人たちと話せば、スッキリしてモヤモヤが吹き飛ぶ。
そうでない人たちと話すと、逆に心にモヤモヤが残ってしまう。
そうでない人たちから話しかけられるのが多い、嫌な自分もいる。

ところで、困ったさんの知りたいたいこと。

真実、この世の仕組みについて話そう。

答えは、「愛」である。

アレ、何を言っているかわからない人も多いだろう。

これについて書くと、本で1冊以上のボリュームになる。

人間生きて行く中で必要なものは、愛なのだ。

世の中は、この愛で成り立っている。

愛というとすぐ愛欲のことを考えてしまう人が多いが、全く関係ない人との関わりにも、愛が前提にある。

愛がないと、盗み放題、犯し放題、殺し放題の世界。

愛には、「遠慮する」という言葉が含まれている。

これは、憶えていて欲しい事柄です。

家族、学校、会社、国、世界、愛がなければ、酷い世界です。秩序があるのも愛がある証拠。

だから、街中で接近しすぎる恋人たちは、偏った愛、こだわりすぎた愛といえます。

見ている安心できる二人連れは、まっとう愛を育んでいるのでしよう。

男女問わず、友達も同様です。

嫉妬するようなら、愛が足りないということです。

愛とは与えるだけのもの。

けっして、欲することはあってはならないのです。

愛が欲しいのは、傲慢以外の何物でもありません。

愛とは、与え続け、そして、忘れることです。

これが、人間に必要な神からの贈り物なのです。

弱き君へ！

宗教書を読みなさい！

すべての悩みの解決策が書いてある。

そして、学問にはまりなさい。
学問の終着点に宗教がある。

あなたの知っている偉人の家には、必ず聖書があります。
時折、思い出したように読んでいたはずです。

なぜなら、そこに答えがあるから。

わたしは、クリスチャンでもなければ、僧侶でもない。
自分で勉強した。

説教をずっと聞いてきた。

一介の技術者がここまでくるには、勉強しかないのだ。
見たこと聞いたこと、世間の動き、街中での観察、すべてが勉強だった。

そこで、世の中の真実、人間の動きと心を理解できるようになった。
それは、子供の持っている純粋な疑問、「なぜそうなるの？」
だったことを、付け加えておこう。

見せかけの強さを持つ君へ

その強さは、自分がいじめられないための先制攻撃だ。

特にいうことはない。

本当の強さは、怒らない、我慢をする。

これができれば、一皮剥けるだろう。

ホ・オポノポノのおさらい

「ありがとう」

「ごめんなさい」

「ゆるしてください」

「愛しています」

ホ・オポノポノを実践するとき、心の中でつぶやくことば。

一体誰に言っているんだろう。

自分に対して言っているのだろうか？

いいえ、違います。

先祖に対して言っていることばなのです。

先祖は、人間です。

これらのことばを聞いたら、どう思うでしょう。

もっと私たちに対して、協力してくれると思いませんか。

あなたも、友人からこのことばを言われたら、もっと仲良く出来ますよね。

運の上がることば、「ありがとう」
どの本にも書いている運が上がることば。

それは、先祖への感謝のことばだった。
先祖が動いてくれたことのお礼のことばだったのですね。

自分の基本理念

・教訓

己だけを信じる。

・生きざま

温故知新・・・古きを知り、新しきを知る。

(古きを学び、新しい創造性に架ける)

・覚書

悪霊は息をしていないので、体に気遣うことなく無理難題を押しつけて来る。
全ての霊は悪霊と思え！
己で判断しろ！

先祖供養、裏名は先祖改心

亡くなった人、先祖の功労を称えしのぶのが、先祖供養。

我が家系に悪いやつがいる、我が家族にどうしようもないやつがいる。その責任は、先祖の誰かにあり。

しよちゆう耳打ちしてたり、悪いことを当たり前だと思込込している。

霊能者に頼んでも、家のドアを出たとたん、元に戻っている。

悪霊は死にません。

悪霊はどっかにも行きません。

いつでも戻ってきます。

悪霊を改心させるのは、あなたです。

あなたがこっぴどく叱り、改心させるしかありません。

一時は謝ります。

けれど悪ガキのごとく、ふすまを出たら、また悪霊に戻っています。

悪霊をやっつける方法は、あなたに任せます。

地球を吹っ飛ばしてもかまいません。

あなたと悪霊の世界ですから、何をやってもかまわないのです。

相手は、あなたの弱点を必ずついてきますから、どうなってもいいと観念してやりましょう。

お祈りだけでは、相手はせせら笑っています。

要するに馬鹿にしています。

先祖が改心するまで、続けてください。

ひとによっては、一生続くかもしれせん。

肝を据えて頑張ってください。

まとめ

心が強い人には、霊界は関与しません。

関与しなくとも、自分で考え一生懸命生きていくからです。

でも、何か危機が近づいてきた時には、何かの形で知らせてきます。

事故を回避できた場合がそうです。

しかし、心が弱い、優しすぎる人には霊界は関与してきます。

あなたの弱気という言葉をいつも聞いているからです。

あなたの親なら、しっかりしなさいと叱ってくるでしょうし、慰めにもきます。

しかし、善霊が関与してくるなら、悪霊も関与してきます。

この悪霊の関与が始まると、不幸が始まります。

あなたが、何物にも動じない心を持っているなら、不幸は表に現れません。

それが当たり前だと思ってしまうからです、気にも止めません。

そして、すぐ忘れてしまいます。

弱気な心を持った人、また、私のように、なぜこんなことが起こるのかと詮索するような人は、悪霊につけ狙われま

す。

悪霊は、自分が攻撃対象になっていないので、どんどんつけこんできます。

当事者は、全然関係ない人を恨みます。

あとは想像に任せます。

一度味をしめれば、あとは加速するだけです。

あなたの家系に悪霊が何人いるかわかりません。

霊能者に頼んでも、霊能者さえも騙されるでしょう。

こういう時、個人の攻撃から多人数の攻撃に変わります。

連携した波状攻撃が始まりますので、どうにもなりません。

あなたが解決するしかないので。

一対一なら、悪霊も連携しません。

他の悪霊は様子見で、徒党を組みません。

世代を超えた悪霊の先祖同士はお互い恨んでいます。

だから、常に一対一です。

また、優れた家系には、優秀な人が世に出てきて、世間をリードするエリートが出現します。

それは、過去に悪霊を懲らしめ、改心させた経緯があるのです。

ですから、あなたの家系も悪霊を改心させさえすれば、立派な家系に育て上げることができるのです。

それは、生きているあなたがなし得なければいけません。

そして、自分をも向上させる糧となるのです。

P.S.

先祖解怨したら、以前のようにパチンコも出るようになりました。

もともとパチンコはうまい人間ですから・・・

謝る、それは怨讐関係の改善

心で誤ってもダメ。

相手の前で必ず謝ること。

謝る側の人の心は地面側に。

謝られる人の心は、相手の背中の上にある。

これで、心の上下関係が決まる。

謝る時は、頭と顔を下に向けること。

必ず、これをしなければならぬ。

それは、先祖の恨みにつながる。

お互いが死んでしまうと、心の上下関係ができなくなる。

そして、恨みはお互い残ったまま。

そうになると、その家系同士が怨讐の関係になってしまうのである。

孫同士は結ばれないし、家同士は喧嘩したまま。

まるで、源氏と平家の関係のよう。

ですから、生きているうちに謝らなければならないのである。

精神に語りかけている人

ツイッターでこういうことを書いている人がいますが、本人はその人と本気で話していると勘違いしています。

確かに、生きている人間と話してはいますが、心の表層で話しているのではなく、深層心理の領域で話していると思われます。

深層心理は、その相手も理解できていません。

そのほとんどが、心の中で「ふふふん」と鼻声で歌っている状態です。全く伝わっていません。

さらに、その話している相手は、浮浪者と思われる人です。

また、浮浪者まがいの社会人である可能性が高いです。

エア―友達もそうですね。

浮浪者は、自分が神になったかのように自覚している方が多いのは、確かです。だから、相談に乗ったり、アドバイスするのが得意なのです。

こういう状態になったら、本気で相手せず、まず精神科に行きましょう！

私はこれを、悪霊と呼んでいます。

本来なら、生き霊でしょうか！

月日が経つと、生きた人間だと理解する方もいられるようですが、霊界の声はこれとは全く違います。霊界の言葉は、断片的で命令口調が多いです。

ほとんどの場合は先祖なので、あれしろ、こうしろ口調なのです。

だから、友人・知人のような話し方は、ほとんどが悪霊です！
経験を積むと、頭のどこから声が聞こえるかによって、判断できるようになります。

気をつけてください！

また、教えてあげてください。

魔の刻（魔の時期）

季節の変わり目は大変である。

いろいろと体調、意識の変わる時期である。

こういうときに問題が起きやすい。

霊的であり、魔の刻に入っていない状態では、物事がうまくいき、お金も入ってくる。

そういう状態を幸運状態と呼ぶ。

10月も半ば、寒い日がつつく状態だと、魔の刻に入ってくることが多い。

こういうときに霊的になると、自分自身を失うようになる。

普通の人なら、体調の変化に伴い風邪をひくことも多いだろう。

霊的ならば風邪にはならないが、悪い状態へ陥ることは必死だ。

こんなときは魔除けのブレスレットを常時付けることで回避ができる。

ちよっと危ないなと思ったらすぐ、魔除けのブレスレットを付けることをお勧めする。

幽霊と交わる

これは書きたくないのだが、事実なので書いてみることにした。

霊的も度を過ぎると女性と霊的に交わることがある。

頻度はほとんど無いが、男性性器と女性性器が交わることもあるらしいのだ。妄想で興奮するわけではない。

何もしないのに、突然男性自身が勃起することがある。

これだけなら、本人の本能がそうさせていると考えられる。

しかし、体が無造作に行為によって動かされてしまうのだ。脳に異常があるといえ、それですんでしまうと思う。

しかし、霊的言葉があり、男性自身と体はその通りに反応するため、これは霊的セックスとしか呼べない。

無作為な相手としているかといえ、そうではない。

特定の相手との行為にいたるのだ。

男性自身の反応は、行為による反応で満足できる。

とくにマスターベーションをする必要も無く、それだけで満足してしまう。

では、相手の女性はどうなのかといえ、これはわからない。

その状態を目の前で見たことが無いので、不明確だ、しかし、相手は満足しているから、単なる陽気になっているだけかもしれない。体があつたかくなっているとも思われる。

おしっこをがまんして、膀胱炎になりかけているかもしれない。

女性になりきったわけではないので、まったくわからない。
しかし、女性も妄想していると思われる。

まったく不明だ。

しかし、浮気をしたら即バレるのも、女性がもしくは男性が体で感じ取っているからとも考えられるので、気をつけよう。

神観と天国

神はいると思っている人に言おう。

神はいない。

神はいないと思っている人に言おう。

神はいる。

神なんかどうでもいいじゃないかと思っている人に言おう。

神はいる。

これがすべての答えだ。

神は人と同じような格好をしていると判断すると、当たっているとも言えるし、外れているとも言える。

ひとは、誰でも何でも神にしてみよう。

あなたのお兄さんも神になれる。

神社も神になれる。

あなたが神を認めてしまえば、あなたは神の声が聞こえる。

その神の声の主は誰だか、何の存在かはわからない。

ただいえることは、神を認めていると声が聞こえることは確かである。

では、神を認めていないと、あなたには神の声は聞こえない。

そこには、神の声はない。

己自身とまわりの声だけだ。

良心の声と邪心の声ではどうだろう。

神を認めていけば、どちらも神の声である。

神を認めていなければ、自分の心と思うだろう。

あなたを讃える声も、あなたに道を示す声も、あなたを戒める声も、あなたをどん底に落とす声も、神である。

良心の声も邪心の声も神である。

あなたはそれを自分の心と置いていけば、そこに神は存在しない。

でも神観を持っている人にとっては、そこにいつも神は存在する。

私はそれを、霊界の声と呼ぶ。

この世を去って、あの世で人を指導する立場にあるものは、天国に近い場所に存在する。

あの世で人を指導する立場にないものは、資格がないのでいわゆる地獄で活動する。

でも、指導する立場にないものが人を指導すると、その存在は悪霊と呼ばれる。

この振り分けは誰かが行ったわけではない。

神様でないことは確かだ。

すべて自分の心で振り分けていると言えよう。

居心地のいいところが住処になるのだ。

人生苦労したから天国に行けるようなところではない。

楽をしていたから天国へ行けるわけではない。

やはり毎日考えていたことや、心の様がそのままあの世に引き継がれる。

人生苦労したなら、あの世でも苦労をする。

そのような世界が霊界である。

となると、神を信じている人の方がより天国に近い住処を得られるようだ。

生きているときに、いつも何があっても幸せだったなら、その人にはあの世も天国なのだ。

生きているときと変わらない。

例えば、どうしよもない人間が天国に行っても、まわりは話の合わないものばかり、けっきょく孤立無援になってし

まい、洩々と地獄へ向かって行く。

そう、そちらの方が話の合う人ばかりだから。

神を信じるものが地獄へ様子を見に行っても、汚い言葉だらけで嫌気がさしてくる。

けっきょくいつもの居場所に戻ることになる。

やっぱり、いつもの街並みとみんなといっしょにいる村がいいのだ。

ということは、地獄にいても神を信じることができれば、地獄を抜け出すことができる。

しかし、神体験ができるのは生きている時だけであるから、ほとんど不可能だろう。神をいつときは信じて、すぐ神を忘れてしまうので、これは難しい。

だから、生きている時に神体験をし、神の存在を疑わなければ、天国に近い場所へ自由にいけるようになるということだ。

そしてそれは、何万年も続くのである。

信じたくない人は、あの世で永遠に悩み苦しむこととなる。

それも地獄かな。

こんなはずはないと・・・。

こんなのウソだと。

なぜなら、それは心の世界であるから。

死ねば目は朽ち果てるか、焼かれる。

視力はないのだ。

心の世界、それがあの世である。

どうです、生きているときと変わらないでしょう。

違うのは、目と耳と口と体がないだけなのです。

だから、神を信じなさいと人は言う。

信じていれば、救われるということになりませんか。

心は永遠に死なない！

口もなければ喉もない。

目もなければ耳もない。

鼻もなければ脳もない。

手もなければ足もない。

体がなければ、そこには心のみ。

それが霊の世界。

靈魂に死は無い。

靈魂は永遠不滅。

だから、心は永遠に存在する。

人生の成功者とそうではない人の違い

人生の失敗者は、心の奥底の声に耳をふさぐ。

心の奥底の声とは、霊界の声！

霊界の声に耳をふさげば、失敗を繰り返す。

心の奥底の声には、良心の声も有り、邪心の声もある。

邪心の声は、現代の社会のルールから外れている内容かも知れない。

しかし、道徳心から判断すれば、それが正解の答えになっている場合もある。

良心の声は神様の声と思うかもしれないが、邪心の声も神様の声でもある。

悪者は、その良心の声も邪心の声も、自分勝手に判断している場合が多い。

悪者でも、成功者は多い。

ただ、一時の成功者であって、人生の成功者にならないことも多いはずである。

これに反し、

まわりから見れば成功者ではないかもしれないが、人生終盤でココロの成功者になった者は多いと思う。見せかけの成功者より、こちらの方が人生を有意義に生きたと確信できるだろう。

また、若くして成功者になった者も多い。

その違いは、心の声に耳を塞がなかった者たちなのである。

その心の声を自分なりに実践してきた者と、そうでない人の違いが成功者と挫折者の違いなのである。

為に生きる

自分のために生きるのではない。

人のために、社会のために、世の中のために、世界のために、家族のために、生きる。

これこそが人間の生きる目的である。

「人生、為に生きる」

これを忘れなければ、必ず人生の成功者となります！

じいちゃんやばあちゃんの声

自分は男性だ。

だから、ばあちゃんの声は聞こえない。

じいだけである。

それも多人数ではない。

常にひとりだ。

普通、霊の世界ではこのひとを守護霊と呼んでいる。

本には守護霊ひとり以外に協力者がいると書いてある。

いわゆる背後霊の集団だ。

協力者には、横のつながりがあると聞く。

だから、守護霊に相談すれば、願いがかなうこともある。

協力者が他の人の守護霊に話を持ちかけるからだ。

守護霊は神様ではない。

かつて生きていた人であるから、自分たちと同じ人間だ。

しかし、ずっと地上に関わっているので、賢者と呼んでもいいだろう。

何でも知っているが、新製品の情報は知らない。

未来も予見できない。

しかし、人が生きていくために必要な情報は何でも知っている。

わからなければ、協力者と相談して新たな知恵を授けてくれる。

もし、守護霊が自分の先祖でなければ、親身になって相談や指導をしてくれるだろうか？

見込みがある者ならば、自分以外の孫を応援するかもしれないが、通常やはり孫はかわいいはずである。しかし、間違ったことをしていれば、やはり守護霊は怒るだろうし、脅すこともあるだろう。

そういうところ、そういう行為が過去にはたくさんあったので、一般的に霊は怖いと受け継がれてきている。

男には、じいちゃんがついているが、女性はばあちゃんではないかと推測する。

どちらにしろ、自分の先祖であることに間違いはない。

問題は、自分を常に冷静に維持し、自分の意志があらぬところに行かないよう気をつけること。

頭の中、心の中が狂ったら、顔でも洗うなり、人とだべるなりして、心の世界から脱出することを試みよう。

また、守護霊は悪い行為や悪い考えを知っていて、それを黙認している心の広さがあることも、認知していなければいけない。

ふつうに、「神様は天から見ているからね！」といった具合だ。

善なる霊の絶対数が少なすぎる

守護霊や善なる指導霊の人数が少なすぎる。

なぜなら、自分勝手霊や悪霊が孫を指導せず、好き勝手にやりたい放題を考えているからだ。

地上の人間に対し指導霊が少なければ、地上の人間は心で善し悪しを考えず、目で見ただけで判断してしまう。他人が困っていても、全く気にせず自分のやりたいことだけを実践している。

世の中が混乱しているも見向きもせず、自分の欲望だけを追う。

そういう人が多くなってしまった。

なぜか？

ほとんどの指導霊が地獄に行ってしまったからだ。

地獄という世界が本来にあるかは知らないが、地獄向きの霊がたくさん集まっている場所（心の世界）があるのは本当なのだろう。

だから、よい指導霊に指導された人は、世の中の成功者となっている。

参謀はたくさんいるのだ。

地上の全人間がよい指導霊に指導されれば、心の問題、貧困の問題は解決され平和な世の中にある。でも、実際はそうではない。

だから、善なる霊の絶対数が少なすぎると感じるのである。

自分の先祖が善なる霊とは限らない。

また、善なる霊が親戚についているとも考えられる。

となれば、善なる霊が自分を認めてもらえれば、指導してくれるはず。

方法はひとつ、為になる人生を送り、人のために時間を費やしていれば、善なる霊なら認めてくれるだろう。それが、他人の先祖霊であっても。

人とはそういうものである。

だから、「為に生きる」

これしかないと感じているのである。

わたしは、これを実践した。

毎日悪霊にさらされている(つかれている)

善霊は、声によって忠告や叱咤激励してくる。

悪霊は、声を出さずあなたの行動に影のようについてくる。

いや、待てよと行動を変えた時、くそーとか、歯を噛みしめる行為を起こす。

悪霊は、あなたが気づかないように、巧妙にあなたの行動を左右してくる。

絶対気づきません。

あなたの体をのっとっていると感じるかもしれません。

それほど巧妙なのです。

悪霊を取ることはできませんが、善霊のいうことをいつも聞いて行動を起こしていると、悪霊は次第にあきらめてきます。

そのようです。

そうなれば、あなたの運はどんどん向上していきます。

運がついている人のように！

ただ、悪霊もしつこくなると、今度は声を出してあなたを騙してきます。

こうなると、善霊なのか悪霊なのかわからなくなります。

そういう時は、あなたが考えて良いと思う行動を取ると良いでしょう。

十中八九、それは当たっています。

まあ、そこに神がいるからと言っておきましょう。

本当は、守護霊かもしれませんけどね。

でも、ときには守護霊も悪霊のフリをするかもしれません？

快楽と快感

快楽と快感を楽しんでいると、霊界の声は聞こえない。

制止する声にも心を傾けない。

そういうことであるから、よく失敗するのである。

だからといって常に気をつけるわけにもいかない。

気をつけすぎると、自分の行動が不安になる。

だから、自信を持って間違っけていても行動する勇気が欲しいものである。

やはり快楽と快感はあっていいものだと思うし、制止しろとは言わない。

気をつけるときは心の声に耳を傾けた方が、物事はうまくいくのである。

目で見えない世界

目で見えていない世界にこそ、すばらしい世界がある。

これは、かつて生きていた人々が言うことば。

しかし、生きている我々は、目で見える世界が目前にある。

目で見えない世界がすばらしいとはまだ言い切れない。
目で見える世界にもすばらしいものがある。

我々は生きているうちにこれを体験しなければならない。
死んでしまつては体験できない世界もある。

死ぬまでにいろいろな体験をし、それを持って目で見えない世界に行く。
さすれば、すばらしい世界となるだろう。

霊との対応

霊は、日本人とは限らない。

話し方、心の声の発生のしかたによっては、霊に通じないことがある。
普通に話すと通じるが、意識して話すと心の声を通じないことがある。

それは、相手が日本人では無いからだ。

しかし、普通に話すと、こちらが日本語でも相手には通じている。

これは不思議なところだ。

だから、通訳者がいらないのである。

ふつう、ひとりで声を発音（発声）すれば、この場合聞こえていないと思う。

本を訓読すれば、声を出して読んでいけば、聞こえていない。

しかし、心でつぶやくと聞こえているのだ。

また、今日発表の新製品の名称もわからない。

これは、当然と言えば当然、見たこともないのだから。

ということなので、全てが聞こえているというわけではない。
安心しよう。

第一、自分を応援して、死んだりしないようにつけてくれているのだから、自分にとっては味方である。仲良くなれば、常に指導してくれる頼もしい人である。しかし、たまには怒ることもあり、元は人なのであるからしかたない。神様ではないのである。

霊界と生き霊の違い

霊界の声は、声なき声が聞こえ、会話している。

生き霊（テレパシー）は、声が聞こえ、会話をしている。

内容が醜くく、自分で正当な考えにならず、生き霊も自分の心の声をオウム返して真似てくるので、私たちは全然気づかない。

さも自分の心で話していると錯覚する。
そこまで巧妙なのである。

過去に、そこに気づいた人は、その相手が悪霊だと判断してきた経緯がある。
やはり、悪霊、生き霊、サタンは、同じ時代に生きている人間だったのである。

普通の人間が生き霊になるのは難しい。
おそらく頭が狂ってしまうだろう。

だから、生き霊は、少し頭の構造が普通の人間と違う人たちだと確信する。

私についていた生き霊は、霊界に頼んで改善してもらった。

その生き霊についている霊界人に、こちらの担当者からお願ひしたのだ。

生き霊の担当である霊界人は、その生き霊にだまされていたらしい。

普通は逆なのだが、この生き霊はそれを逆手に取っていた。

結果として、私は普通に戻った。

これまでにいろいろ書いてしまったが、こちらに書いた内容はほぼ間違いないと思う。

あらためて、お詫びを言いたい。

よって、また、カラダ編やココロ編も書いていきたいと思う。

死んだ人は今も生きている

人の肉体が朽ち果てても、精神エネルギーはまだ存在する。

人が死んで靈魂が存在するようなもの。

この精神エネルギーは、まだ死んでいない人と死んだ人とも全く変わらない状態であり、普段どおりのことをしている。

生きている人は、目で耳で体で確認しているので、納得ができています。

かたや、死んでしまうとその確認ができない。

しかし、生きている状態なのである。

心は、生きているときと死んでしまっても全く変わらない状態であり、死んでしまおうとそのギャップに悩むようにな

る。

1日や2日では全く理解できず、死んだ人は自分の葬式が行われようとしていることに気づく。目は見えないため、まわりの声だけが聞こえる。

自分は、植物人間状態なのかと勘違いしてしまうだろう。

しかし、動き回らなくても、自分の気になる人の言葉は聞こえる。

何故だ、自分は見えないのにまわりには知人がいっぱいだ。

泣いている人もいる。

しかし、見えない。

起きたまま何日か過ぎると、自分の葬式が行われたようだ。

しかし、自分はまだ生きている。

勘のいい人は、こちらで自分が死んだと納得するようだ。

後は、自分の好きなように生きているということ。

水も飲めば食事もある。

何でもできる世界。

そのうち暇になるので、文句を言いたいやつには文句を言うし、面倒みたいやつには親身になって世話をする。それが死んだ人の日常生活なのである。

これは、普通に死んだ人。

苦しんで死ぬとそうはいかない。

毎日うめいている。

誰かが声をかけなければ、永遠にうめいているだけだ。

死んだ人同士で慰めることはしない。

そのうめいている人に、「あなたは死んだのよ」「もう苦痛はないのよ」と諭さなければいけない。その役目が、残された身内と知人なのである。

生きている人は、この役目がある。

静かに成仏すればこういうことはないのだが、事故で死んだり、自殺すると、最後の瞬間は痛いのであるから、ずっとうめいている。

だから、どういう死に方であろうと、どういう人間であったとしても、死んだ後に残ったまわりの人たちは、今そこに生きていると思って、話しかけなければいけないのだ。成仏してもらうために！

良心の声

人は必ず良心の声というのがあると思っている。

良心の声というのは、死んだ先祖だったり、自分の守護霊だったりする。また、神様の声だったりもする。

自分の都合の良いようにこの声を利用したりすると、最初のうちはすごいと感ずるだろう。

しかし、それが度を超えてくるとそのうち声が聞こえなくなったりするものである。

良心の声であるから、その考えはまずいぞと言って諭してくるが、我々はその声さえも無視するようになる。そうになると、自分の運は下がり、下降を続けるようになる。

そういうときは、もう一度考えをあらためスタート地点に戻り、1からの出発を目指さなければならぬ。

そうなれば、良心の声ももっと強く感ずるようになるだろう。

頭の中に小悪魔

頭の中から小悪魔のような声が二人聞こえる。

いたずらっぽい話し方だが、れっきとした人間である。

何かしようとする話し声が聞こえる。

また、こちらの考えごとを読まれているようでもある。

気になるところさいと感じ、こちらも落ち着かない。

結局この声を無くすには、霊界から天罰を受けないと無くならない。

天罰が光の閃光のように、貫くと声の主達は消えてしまった。

深夜このような声が聞こえたら、霊界にお願いするしかないだろう。

この小悪魔達は、オンラインでゲームチャットをしていたかオンラインゲームで熱中していたやつだと思う。天罰については、パソコンが壊れたか、ゲームが固まったと読んで良いだろう。

霊界の声の聞き方

小悪魔、テレパシー、霊界の声等があるが、霊界の声を確実に聞く方法がある。

それは、朝起きて心の中に声がすれば、それは霊界の声。

男性ならじいさんが、女性ならばあさんの声がするだろう。

この声は静かな声なので、まわりがうるさければ聞こえない。
そして、何か忠告や助言があるはず。

男性なのにはあさんの声が聞こえていたりすれば、その男性はおかまかニューハーフになる可能性があるだろう。

悪霊（あくりょう）とサタン（人）の違い

自分の心に嘘をつく悪霊が憑く。

悪霊は死んだ人ではない。

「魔」ともいう。

サタンは自分の心を惑わせる生きている人。
時に、サタンの声が聞こえる様もある。

なんでん屋